

平成三十年度学力試験問題の「出題意図」・「評価ポイント」について

国語【昼間コース 一般入試…前期日程】

問題一

出題意図

この文章は、日本の魚食文化の成り立ちを捉え直すとともに、それを支えていた日本近海の水産資源が減少し、魚の価格が徐々に高騰している状況の要因を分析し、今後の漁業のあり方について読者に考えさせることを目的としている。また、これらを考えるにあたり、感覚的な言説にとられず、データに基づき、論理的に検証することの重要性を伝えようとしている。やや長い文章ではあるが、平易な文体であり、論旨も簡潔でわかりやすく、高等学校卒業程度の基本的国語力があれば短時間でも正確に読解することが可能である。設問は、基礎的な語彙力を問うとともに、筆者の主張の要点やその根拠を読み取り、受験者自身の言葉で表現できるかを問うもので構成している。また、地域（北海道）の社会や文化を日頃どれだけ意識しているかを問うものでもある。

評価ポイント

問一 一般的な評論等で用いられる範囲の難易度の漢字について、正確に読み書きができていないこと。

問二 地域（北海道）の文化や歴史を特に象徴する現象についての知識を有していること。

問三 問題文において述べられている事柄を適切に抽出できていること。

問四 該当部分の比喩表現を正確に理解し、その指し示す事柄を本文中の語句を用いて的確に説明できていること。

問五 該当部分の前後の文脈を正確に理解し、その論理構造（論じ方）を抽象化することができていること。

問六 問題文中で(1)(2)(3)それぞれについて論じている段落から、筆者の主張の肝要な部分を読み取ることができていること。筆者の主張を要約させる問題である。

問七 問題文の内容全体を理解し、その正誤を正確に判断できていること。

問題二

出題意図

古文に頻出する古語や定型的表現を理解しているか、高等学校で学習する古典文法や和歌についての知識を一定以上習得しているかを問う。また、これらを用いて、古文の文章、意味・内容（文脈・状況設定や登場人物の考え・心情など）を正確に把握できているかどうかをみる。さらに、日本古典文学史について基礎的な知識を持っているかを確認する。

評価ポイント

問一 古文でよく見られる古語を正しく読み書くことができていること。

問二 (1)平安時代・一条朝の文学状況について基礎知識を持っていること。関係事項を漢字で正しく書けていること。
(2)(3) 該当箇所の語彙・文脈を理解できていること。

問三 (1)平安時代・一条朝の文学状況について基礎知識を持っていること。関係事項を漢字で正しく書けていること。
(2)『小倉百人一首』にも採られている有名な和歌がある程度知っていること。

問四 該当箇所の文脈を理解していること。現代語にも残る古語的定型表現を知っていること。

問五 (1)和歌の基礎的な修辞技法を知っており、適切な語句を正しく書けていること。
(2)『小倉百人一首』にも採られている有名な和歌がある程度知っていること。
(3)本文および関連の古文の内容・文脈・状況を把握し、理解できていること。正しい現代日本語で説明できていること。

問六 本文の内容と古語・古典文法を理解しつつ、正しい現代日本語に訳せていること。

問題三

出題意図

問題文は、人びとが格差の存在を容認するという現象について、心理的要因を中心に解説した文章である。やや長い文章ではあるが、平易な言葉で書かれており、高等学校卒業程度の基本的な国語力があれば十分に理解可能である。大学における勉学では、理論や概念間の関係を把握しながら文献を読むことが必要となる。よって、本問では基礎的な語彙力や文章読解力があることを確認するとともに、現象の要因となる理論や概念や、これらの理論や概念の関係を構造的に理解できる能力基盤があるかについて中心的に問うた。

評価ポイント

問一 一般的な評論文等で用いられる範囲の難易度の漢字について、正確に読み書きができていないこと。

問二 文脈を正確に理解し、適切な接続語を選択できていないこと。

問三 文脈を正確に把握し、空欄に入れるべき基本的な単語の知識があること。

問四 基本的な語彙の知識があるとともに、問題文で解説している理論とその理論が現象に影響する仕組みを読解し表現できていること。

問五 基礎的な語の知識があるとともに、その具体例を文脈に合わせて問題文より選び出していること。

問六 問題文における概念の解説を読解しているとともに、その概念を文脈に合わせて使用できていること。

問七 現象の一要因に関する解説部分を、字数制限に合わせて本文より抜き出していること。

問八 問題文で登場する各理論や概念の解説を読解し、日本における格差の容認という複合的な現象の要因を、登場する各理論や概念により構造的に理解し表現できていること。

問題四

出題意図

「白雪歌」は唐詩の中でもよく知られた送別詩である。雪の降りしきる中での送別の場面を正しく読み取り、両人の心情と結びつけて理解することは容易であろう。更にこの詩の理解を助けるために、詩人と詩風について説明する文章を加えた。そしてこれらの詩文によって、高等学校までに学習した漢語・漢文の用法の習熟度を問うた。

評価ポイント

問一 漢文の語順を理解し、それにしたがって、漢語を正しく並べ替えられていること。

問二 詩にうたわれた情景を読み取り、白色と対照をなす語を指摘できていること。

問三 「忽如」や「千樹万樹」といった語の意味を理解し、「梨花」のように白い雪が積もった光景を思い描き、正しい日本語で訳出できていること。

問四 送別詩における別離の場面を想像し、馬が雪の上のこしたものを簡潔に答えられていること。

問五 詩全体の構成を理解し、場面の転換箇所を指摘できていること。

問六 本文の内容に即して指示された漢字を正確に読めていること。

問七 漢文の語法にしたがい、正しく読み下せていること。

問八 文章の意図を理解し、正しく簡潔な日本語にまとめられていること。

問九 文学史における唐詩について基礎的な知識をもっていること。